

〒145-0031 東京都品川区西五反田3-2-13

目黒さつきビル3階

TEL 03-6303-9134 FAX 5487-7844

Eメール jrroukairou@yahoo.co.jp

J R 東海労働組合

発行人 小林 光昭
編集人 高山 浩

2017年
2月1日
第382号



JR東海労

http://www.geocities.jp/jrtoukairou/

2017年を職場から闘おう！ 各地本が新春旗開きを開催

新幹線地本

新幹線地本は1月8日、大井町中小企業センターで2017年新春旗開きを開催しました。

成田委員長は挨拶で「昨1年間の闘いの最大の成果は、不当なボーナスカットゼロを勝ち取ったことである。結成以降毎回繰り返されてきた攻撃だが、新幹線地本のみならずJR東海労組織全体で闘い続けてきた成果だ。国鉄改革から30年の節目の年、会社はリニア建設の財源確保のため、さらなる攻撃をかけてくるであろう。すでに昨年末、新幹線乗務員の乗組基準変更という大幅要員

削減を提案してきた。労働強化・賃金抑制を許さない闘いを職場から、他労組・関連会社の労働者にも働きかけながら強化していこう」と訴えました。講演として、リニア・市民ネット代表の川村晃

静岡地本

静岡地本は1月12日、静岡労政会館で2017年新春旗開きを開催しました。

植松委員長は、年頭所感で「昨年の年末手当で組合員のボーナスカットがゼロとなった。会社からの組織破壊攻撃を跳ね返したJR東海労の闘いの成果を、全体で確認しよう。結成25年が経過し、気持ち新たにJR総連春闘と3月9日の控訴審勝利に向けて、自己を強化しつつ組織拡大を実現させるため、職場から奮闘しよう。反戦・平和・反核・原発・ノーリニアの立場を鮮明にして闘いを推し進めよう」と訴えました。

名古屋地本

名古屋地本1月17日、金山・アビタンで2017年新春旗開きを開催しました。

山田委員長は、挨拶で「世界情勢は1920年と酷似してきている。トランプ米大統領は孤立主義を全面に押し出していることや、ヨーロッパにおけるポピュリズムの台頭などがその例だ。国内でも安倍政権の暴走は

止まるところを知らない。そういった混沌とした状況の中で、平和を守る闘いを全ての仲間たちと連帯していく。さらに、春の闘いをしっかりと闘っていく」と訴えました。

来賓として、本部小林委員長、本部越坂業務担当部長、JR貨物労組東海地本細川委員長、名古屋地本OB会原会長、楠達男関ヶ原町議会議員、

生慶応大学名誉教授より「文明論からリニアを考える」と題し、問題提起を受けました。「より早く便利であればより幸せだと本当に感じられるのか？スピード化によって仕事も生活もますます苦しくなっている」という観点から、リニア中央新幹線の問題点が明らかにされました。

り組みの報告を受けました。元JR東海労本部執行委員長の伊藤明男さんより、組織強化・拡大、出向先会社での闘いなどについて報告を受けました。



新幹線関西地本

新幹線関西地本は1月9日、西町甲東会館で2017年新春旗開きを開催しました。

第一部は、小林委員長の年頭所感で始まり、本部長から挨拶を受けました。ボーナスカットゼロ、出向先を含めた労働条件改善の闘い等の成果と、今年も昨年以上に奮闘していくことを全体で確認しました。

続いて、新聞うずみ火

の矢野代表より講演として、改憲にむけた現状について問題提起を受けました。

第二部では、各分会から今年1年間の闘う決意表明を行いました。「ミートイングルーム移転はメリットが無い。社員の声を集め改善していきたい」「出向先の諸問題、労働条件の改善にがんばっていききたい」「来年度は大卒社員が増えるが、年配者への期待がまだある。存在感を発揮していく」「憲法改悪に反対していく。社員の遅刻で会社が原因としたことはおかしい」「本人訴訟の結果、果は厳しい議論の結果、諦めたら駄目。生駒山平和研修を成功させていこう」「ボーナスカットゼロの勝利を確認。車掌の効率化、職場からしっかりと反対していく」などの決意が語られました。



定期中央委員会に向け認識を意思統一 全分会代表者会議を開催

JR東海労は1月21日、名古屋で全分会代表者会議を開催しました。この会議は、昨年の闘いの報告と第30回定期中央委員会に提起する方針の柱を意思統一するために開催しました。

や、新幹線車掌の基準乗り組みに対する問題、⑤について、ボーナスカットゼロを勝ち取ったこの間の闘いを提起し、各課題について全体で確認しました。

休日指定予定日公表の 廃止は問題！

本部、会社に申し入れ

本部からの報告と問題提起は、①2017JR総連春闘に向けて、②効率化に抗する闘い、③組織強化・拡大、④国鉄改革30年の現実と課題、⑤不当なボーナスカットを跳ね返す闘いの成果と教訓、⑥その他について行いました。

①については、連合の春闘方針を軸に打ち出したJR総連の考え方とJR東海労の考え方、②については、東海道本線の駅営業体制の見直し



会社は組合に何の説明をすることなく、一部の職場に「休日指定予定日公表の廃止について」という掲示を掲出しました。休日の指定予定日の公表は、社員にとって翌月の生活の計画を立てるために必要不可欠です。現場で働く社員は、休日指定予定日の公表を望んでいます。

本部は、掲示が掲出された直後、本社に対し「本社・本部間で説明すべきだ」と抗議しました。本社は「施策の変更ではないので必要がない」と見解を示しましたが、JR東海労からの説明には答えるとしませんでした。本部は1月12日、以下の内容で「休日指定予定

② 休日指定予定日を導入した経緯について明らかにすること。
③ 職場によって廃止するに至った経緯は何か明らかにすること。
④ 休日指定発表を廃止する職場はどこなのか明らかにすること。
これに対する業務委員会は2月7日に開催されます。

新幹線車内業務の見直しは 労働条件に関わる問題だ！ 会社に団交の申し入れ！

新幹線鉄道事業本部および関西支社は昨年12月21日の業務委員会、「新幹線車内業務の見直し」について提案し、「業務体制の見直し」「車掌とパーサーの基準乗り組み数の見直し」について会社の考え方を明らかにしました。

JR東海労は、この件は労働条件の改訂に關することであり、団体交渉の開催を求めました。本部は1月12日、「新幹線車掌業務見直しに関する団体交渉開催の申し入れ」(『申第15号』)を提出し、早急に団体交渉を開催するよう求めました。

乗務員分科会が 定期委員会開催



乗務員分科会は昨年12月12日、第23回定期委員会をウインクあいちで開催しました。発言では、ボーナスカットゼロ、要員問題、専任社員の労働条件、労務管理の問題などについての意見が出されました。役員は以下の通り、選出しました。会長・広瀬哲也(新幹線地本)、副会長・梶田睦則(新幹線関西地本)、鈴木直(静岡地本)、事務長・太田恒和(名古屋地本)

ボーナスカット 成田本人訴訟結審

新幹線地本成田委員長「非違行為」を上げた管理人訴訟の第7回口頭弁論が開催され、結審しました。成田委員長は、裁判の証人尋問で、ボーナスカットの理由とされた「非違行為」を上げた管理者を法廷の場で追及し、その出鱈目さを暴露してきました。判決は3月29日です。

鉄道愛好会が 京都鉄道博物館見学会



鉄道愛好会は1月15日、京都鉄道博物館見学会を開催しました。見学会には、組合員・OB・家族19名が参加しました。あいにくの雪でしたが、雪の中のSLを撮影することができました。見学会終了後は、駅近くの居酒屋で懇親会を開催し、京都グルメを味わいながら、鉄道の話で盛り上がりました。

各機関定期委員会日程

- 第30回定期中央委員会
2月11日 名古屋れあろ
- 新幹線地本第22回定期委員会
2月26日 大崎第一区民集会所
- 静岡地本第26回定期委員会
2月28日 静岡労政会館
- 名古屋地本第27回定期委員会
2月24日 牧野コミュニティー
- 新幹線関西地本第22回定期委員会
2月19日 吹田勤労者会館